



事業報告 & 事業計画 (案)

2019年度 事業報告 (2019年5月1日～2020年4月30日)

- 第29回総会
創立30周年記念式典・講演会及び祝宴 (6月23日)
講師：コシノ ヒロコ氏 『ファッションの持つ力』
- 会報『Gift of Life』Vol.27 発行 (6月23日)
- 共催、後援、協賛事業
●NPO法人 兵庫県腎友会主催
・兵庫県慢性腎臓病腎シンポジウム2019 (3月)
●兵庫県臓器移植推進協議会主催
・臓器移植を考える市民公開講座 (4月・11月)
・GIFT OF LIFE「移植を受けた子ども達の作品展」 (8月・2月)
・チャリティゴルフ大会 (11月10日)
●兵庫県透析医会 移植推進委員会
・市民公開講座 (9月・10月)
- 兵庫県臓器移植推進協議会支援
- 当協会の目的とする腎疾患への理解、臓器移植推進のために一般市民への啓発事業を企画推進する。
①創立30周年記念事業として「臓器提供意思表示カード」の普及推進への提案やPRを推進。
②県内移植コーディネーターの活動を支援。
- ホームページバナー広告募集、掲載
- 創立30周年記念誌制作

2020年度 事業計画(案) (2020年5月1日～2021年4月30日)

- 第30回総会 (7月)
新型コロナウイルス感染対策のため、書面による総会に変更
- 創立30周年記念誌制作、発行 (継続事業)
- 会報『Gift of Life』Vol.28 発行 (7月)
- 当協会の目的とする腎疾患対策、腎移植推進のための講演会、シンポジウムや「臓器提供意思表示カード」の普及推進など啓発事業を企画実行する。
- 関連団体の主催する腎疾患対策、腎移植推進のための講演会、シンポジウム、啓発事業などに協賛する。
- 関連団体、兵庫県の移植コーディネーターへの支援
- ホームページバナー広告募集、掲載
- その他

2020～2021年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事

医療法人敬愛会 西宮敬愛会病院 院長 神戸赤十字病院 顧問	医療法人社団 坂井瑠実クリニック 理事長	医療法人協和会 市立川西病院(指定管理) 顧問		
会 長 守 殿 貞 夫	副 会 長 坂 井 瑠 実	吉 永 和 正		
三田市民病院 事業管理者 兼 院長	神戸大学大学院医学研究科 特命准教授	兵庫県臓器移植コーディネーター 今 村 友 紀	兵庫県臓器移植推進協議会 会 長	兵庫医科大学病院 腎・透析内科 診療部長 血液浄化療法-長 教授 倉 賀 野 隆 裕
幹 事 荒 川 創 一	石 村 武 志	株 式 会 社 毎 日 広 告 社 代 表 取 締 役 社 長	医 療 法 人 た け だ ク リ ニ ッ ク 理 事	医 療 法 人 永 仁 会 理 事 長 尼 崎 市 医 師 会 参 与
兵庫県臓器移植コーディネーター 杉 江 英 理 子	NPO法人 支援の会ひまわり 理 事 長	偶 田 保	竹 田 雅	永 井 博 之
兵庫医科大学 内科学 腎・透析科 講師	兵庫医科大学 名誉教授 特定医療法人五仁会住吉川病院 名誉院長	神戸大学医学部附属病院 腎臓内科教授 腎・血液浄化療法-長	兵庫医科大学 腎移植療法-長 泌尿器科 臨床教授	株 式 会 社 毎 日 広 告 社 顧 問
長 澤 康 行	中 西 健	西 慎 一	野 島 道 生	八 馬 富 久 子
医療法人社団 坂井瑠実クリニック 顧 問	神戸大学大学院医学研究科長 医 学 部 長	NPO法人 兵庫県腎友会 会 長	ま つ も と 泌 尿 器 科 院 長	NPO法人 兵庫県腎友会 相 談 役
福 西 孝 信	藤 澤 正 人	松 菱 理 恵 子	松 本 修	森 利 孝
元、安井眼科 院長 国際ソロプチミスト神戸東健康福祉担当	兵庫医科大学 泌尿器科 主任教授	社会医療法人純幸会 関西メディカル病院 腎臓内科	吉 川 美 喜 子	
安 井 多 津 子	山 本 新 吾	吉 川 美 喜 子		
高砂市民病院 名誉院長	元、(財)尼崎健康・医療事業財団 市民開発センターハーティー21 シニアアドバイザー	長久天満診療所 院 長	国際ソロプチミスト神戸東 会 長	
顧 問 後 藤 武 男	藤 岡 晨 宏	会 計 監 査 長 久 謹 三	平 高 綾 子	



新型コロナウイルス感染症に翻弄されて ～臓器提供は進んでいない～

兵庫腎疾患対策協会 会長 守殿貞夫
(西宮敬愛会病院 院長)

会員の皆さまにおかれましては、ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、7月に定期総会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染流行のため、本年度は書面総会とさせていただきます。毎年、総会時に発行していた「Gift of Life」をお届けします。なお、先日の書面総会で、2019年度の事業報告&事業計画、ならびに2020年度事業計画が承認されましたことをご報告しておきます。

『 創立30周年記念誌 』

昨年6月23日、兵庫県知事 井戸敏三様にお越しいただき、記念講演にコシノヒロコ氏をお招きし盛大に行われた創立30周年記念式典、我々会員にとり30年を振り返る、忘れられない感銘深い式典でした。年初2月15日の幹事会で、この30年を機に今年の総会に間に合うよう記念誌を作ることが決まり、編集委員会(委員長 吉永副会長)を立ち上げました。編集委員は、創立に携わった移植医療関係者、国際ソロプチミスト神戸東メンバー、TPM担当者他をお願いしています。記念誌は過去の総会での特集記事、毎年10月「臓器移植普及推進月間」に朝日新聞や神戸新聞に1ページ広告として掲載していた「腎移植推進啓発広告」の転載記事、井戸知事、久元神戸市長をはじめ行政の方々、兵庫県移植医療関係者、兵庫県透析医会会長、国際ソロプチミスト神戸東、兵庫県腎友会の皆様からのお言葉等で構成する計画をたてました。

しかしながら、その後のコロナ感染の流行により作業は進まず、第一波が過ぎ7月から活動しようと思った矢先に第2波の気配で作業は遅れており、年内の発行が危ぶまれる状況に至っています。時期が外れても30周年記念誌は発行しますので、ご協力方よろしく願います。

『 ウイルス感染症時代 』

現在、流行中の新型コロナウイルス感染は慢性腎臓病、特に、腎炎、ネフローゼ患者さん、腎移植後に免疫抑制剤やステロイドを内服している方、および透析を受けている方で重症化のリスクが高いため、当初の症状が軽微でも肺炎へ移行する危険性を念頭に治療することが望ましいとされています(日本腎臓学会)。

腎疾患の予防から治療、移植までの総合医療体制の確立を目指し、腎疾患で苦しむ方々の生活の質(Quality of life)向上に寄与することが目的の当協会として、ウイルス感染、新型コロナウイルス感染と腎疾患・腎移植との関りを皆様と共有したく、以下述べてさせていただきます。

『新型コロナウイルス感染症』

2019年12月に中国・湖北省武漢市で41人が原因不明の肺炎を発症し、その原因が新型コロナウイルスであることが明らかにされた。ご存知の通り、今や「COVID-19（新型コロナウイルス感染症）」は我が国を含め世界中に拡大しています。21世紀に入り、新型コロナウイルスによるSARS（重症急性呼吸器症候群、2002年流行）とMERS（中東呼吸器症候群、2012年流行）が世界に感染拡大した。日本では幸運にも両感染症は流行しなかったが、今回の「新型コロナ」では、感染爆発に近い状態に至っています。

『ウイルス感染症の流行は予言されていた』

世界初の抗生物質ベンジルペニシリン（ペニシリンG）が1942年に実用化されて以降、1980年から2000年にかけて多くの有効な抗菌剤が開発され、細菌感染症はかなりコントロールされています。しかし、細菌に有効な抗生物質はウイルス感染には効かない、ここにウイルス感染の怖しさがあります。菅原明子氏（2001年）は著書『ウイルスの時代がやってくる』のなかで、21世紀はウイルス・ウォーズの時代と述べておられ、今まさにその時代に突入したといえます。「抗生物質が効かないウイルス」には現状では免疫力で勝つ以外手はない。COVID-19は、今や世界経済をも根幹から揺るがすほど恐ろしいウイルス感染症です。20世紀以降、人類の命を最も多く奪ってきたものは戦争でも、自然災害でもなく、ウイルスの感染爆発「パンデミック」です。交通網の発展や地球規模の温暖化などが「大感染時代」に拍車をかけています（NHKスペシャル シリーズ MEGA CRISIS 巨大危機 ～第3集 ウイルス“大感染時代” 2017年）。

新型コロナウイルス感染症時代における血液透析・移植医療 ～会員諸兄姉の皆さんへ情報提供～

日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会、新型コロナウイルス感染対策合同委員会は7月24日、透析患者の新型コロナウイルス感染者累積数が全国で130人、死亡者数が22人と報告しています。透析患者は糖尿病や高血圧症など合併症を有し、高齢患者も多いことから、重症化のリスクが高い。加えて定期的な通院による院内感染のリスクもあります。透析施設内に新型コロナの感染者が発生した場合、感染拡大のみならず、透析医療の停止・崩壊を招く恐れがあるため、院内感染防止対策の徹底が求められます。

臓器移植医療では、移植患者は拒絶反応を予防するため免疫抑制下にあり、COVID-19が重症化しやすい。移植に際して、ドナー由来のCOVID-19の伝播が否定できない場合もあり、生体移植、脳死下・心停止後臓器移植施行や移植後の患者管理で慎重な対応が求められています。移植患者の新型コロナウイルス感染者累積数は7月20日時点で15名、死亡者は2名と報告されています。

我が国の今年6月までの臓器提供数は計38件（脳死下34件、心臓死下4件）で、2019年同月迄で54件（41, 13）、2018年45件（34, 11）2017年49件（32, 17）に比し減少しています。米国とフランスでも新型コロナウイルスの感染拡大と同時に臓器提供件数が激減したことが報告されています。

『臓器提供者が増えない』

現在、兵庫県腎移植登録者数は587名で今年は6月迄で臓器提供数4件と少ない。移植を希望する患者さんが一人でも多く救われるよう、更なる臓器提供啓発活動が求められています。

人口100万人当たりの臓器提供数を国別で比較すると日本は0.7人に過ぎず、これは米国の1/41（28.5人）、韓国の1/14（10.0人）です。米国には全米規模の臓器移植システムである[全米臓器獲得及び移植ネットワーク（Organ Procurement and Transplantation Network：OPTN）]（全米臓器配分ネットワーク）の傘下組織に「臓器獲得機構（OPPO）」があります。この組織は、移植用の臓器の獲得を専門とする機関です。韓国にも同じような組織があります。

日本には臓器移植ネットワークがあるが、ネットワークは臓器を斡旋する組織であって、臓器を獲得する組織ではありません。米国のように臓器を獲得する組織づくりが必要です。イスタンブール宣言などにより日本人の海外での移植の機会は少なくなってきたり、自国民を自国で救う体制・組織づくりが求められています。



「人生会議」で脳死や臓器提供について

昨年のGift of Life(No.27)に、「人生会議」で～臓器移植・臓器提供について話し合おう～と提案させて頂きました。

欧米では1995年から、人生における『Advance Care Planning(ACP)～健康時から将来の自分にとって“望ましい医療・ケア・プラン”を予め考える～』ことを国民に提唱しています。厚労省は我が国でも、国民一人一人が若い時から自分自身の人生設計、個人の価値観、罹患時や事故遭遇時にどのような治療、対応を望むのかを共有するため、家族間、時には医師等第三者を含めACP（家族会議）を行うことを平成30年11月30日（金）に提言しました。政府はこのACP（家族会議）に「人生会議」という愛称を付け、高齢化社会に向けて個人が若い時から人生設計を立てなさいということになりました。

日本臓器移植ネットワークが10～60代の男女計3000人を対象に行った2016年の調査では、「臓器移植について、家族と話をしたことがありますか」という質問に対し、「今まで1度でもある」と答えた人の割合は26.3%に過ぎませんでした。私は、この「人生会議」の中で、臓器移植について家族間で是非とも話し合ってもらい、家族個人個人の臓器提供についての意識確認を共有できる機会にして頂きたいと思っています。臓器提供を遠い世界のことでなく身近なものと考え、それを通じて命のありがたさを家族と話し合うこと、そして本人や家族の意志を第一としながら、医療機関も含めて臓器提供を終末期の一つの形として捉えて頂くことを願っています。

「臓器移植について知らないから」が移植医療の推進上、最大の問題とされる現状を踏まえれば、人生会議の中で、当該者が脳死状態になった場合、臓器提供の意思があったこと、ドナーカードを有していたことを、他の家族が共有していれば、臓器提供に繋がることが期待されます。当協会の啓発活動の一環として、是非とも人生会議の中で臓器移植、臓器提供について家族間で話し合う機会をもって頂くよう、会員各位におかれましては、まずは身近な人に伝えて頂きたいをお願いします。

人生会議において、各個人の生命倫理感によって「脳死・心臓死下による臓器提供」について話し合い、若い時から意思表示しておくことが大切です。我が国の移植医療が一日でも早く良い方向へ向かうことを願っています。